

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	令和3年度第2回高松市生涯学習センター等運営協議会
開 催 日 時	令和3年12月21日（火）午後1時30分～午後3時
開 催 場 所	高松市生涯学習センター2階 大研修室
議 題	(1) 令和3年度高松市生涯学習センター主催事業（上半期分）について (2) 令和4年度高松市生涯学習センター主催事業（案）について (3) 生涯学習の今後の推進方針（案）について
公 開 の 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	5人 田中委員、藤井委員、後藤委員、宇都宮委員、長尾委員
傍 聴 者	0人（定員5人）
担当課及び連絡先	生涯学習課 生涯学習センター 087-811-6222

会議の経過及び結果

《次第》

- 1 開会
- 2 教育局次長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 令和3年度高松市生涯学習センター主催事業（上半期分）について
 - (2) 令和4年度高松市生涯学習センター主催事業（案）について
 - (3) 生涯学習の今後の推進方針（案）について

※ 事務局より配付資料に基づき説明後、議事単位で協議・意見交換
- 5 その他
- 6 閉会

《協議の経過及び結果》

事務局から、議事（1）及び（2）について、説明を行った。

（会長）

令和4年度に生涯学習センターが主催する講座の見直しを進めるために、講座のアンケートを実施しているという説明があった。今までに実施していたアンケートの結果については、講師には渡さず、事務局で把握するのみであったのか。

（事務局）

受講した講座毎のアンケートは令和3年8月から開始した。それ以前は、生涯学習センターの講座全般に関してのアンケートのみを行っていたので講師には提供していない。令和3年8

月以降の講座毎のアンケートの結果は整理を進めている段階であり、今後、受講者の評価が高くない講座については講座内容等の見直し、評価が高い講座については継続開催していく予定である。

(会長)

大学では授業評価の結果を事務局で整理するだけでなく担当教員にも渡している場合もあるが、アンケートの結果は講座改善のために使うということを受講者の方にも知らせて、今後も事務局で把握するに留めた方が良い。

講座の評価については、受講者数だけは評価できない部分があるため、受講者へのアンケートを基に評価することは良いことである。

(事務局)

アンケートの結果については、事務局での講座の見直しの資料として活用していく。

(委員)

令和3年度に実施した講座の中で、「古典文学講座」、「民俗への招待」などは、募集定員に比べて受講者数が非常に少ないが、令和4年度では見直しの対象になるのか。個人的に非常に興味深い講座であるため、受講者数が少ないことだけを理由に開催されなくなると非常に残念である。講座を見直す際の基準について教えていただきたい。

(事務局)

募集定員に対して受講者数が少ない講座でも、生涯学習センターとして開催すべき講座もある。受講者数が少ないことだけで講座を開催しないということではなく、受講者の評価も参考にしながら、講座内容や会場の広さ、また広報の仕方についても見直すことで、開催すべき講座については形を変えながらも開催していこうと考えている。

(委員)

受講者が少ない講座の中には、毎年開催しているものがあると思うので、毎年同じ方が参加しているのか、新しい方が参加されているのかが気になる。もちろん、毎年同じ方が新しい知識を求めて受講されているのは決して悪いことではないが、新たな受講者層を広げていくことも大事なことはないか。新たな受講者層へのPR方法なども検討していただきたい。

(事務局)

広報高松への講座の掲載方法が変わったことで、これまでのような講座の一覧表が載せられず、一部の講座しか載っていない状況である。詳しい講座情報が載っているホームページのQRコードを広報高松に載せるなどの工夫をしているが、なかなか新しい受講者は増えていない。今後も情報発信を重要な課題と捉え、検討していきたい。

(会長)

民営の文化教室等では講師に対する謝金が決まっておらず、教室に集まった人から集めたお金を、講師と事業者で半分ずつもらえることがある。つまり、教室に人が増えれば増えるほど収入も多くなるが、一定の人数が集まらなければ開催できないということである。

(委員)

コミュニティセンターの場合は、どちらかという講師はボランティアが多く、受講者が多く集まらなくても、要望のある講座は開催している。民営のカルチャーセンター等と比べて収入はないが、講師にとっても受講者にとっても貴重な学習の場であると思う。今後、講座の見直しを図ったことで、実際は需要のあった講座が削られないようにしていただきたい。

(事務局)

受講者が少ないということは、情報発信等、事務局の課題でもあると考えるので、講師や講座内容だけの評価だとは捉えていない。受講者数が少ないことだけをもって講座を廃止することは考えていないが、テーマ等の見直しを行っていく必要はあると考える。生涯学習センターとして開催すべき講座は今後も継続していきたい。

(委員)

生涯学習センターとして開催が必要と考えられる講座や、社会として高松市として必要な講座というのは、やはり継続していくべきと考える。開催する曜日や時間を変えて夜間に開催するなどの工夫をしてみたら、違った結果が見られると思う。

(委員)

講座をチラシで広報するというの一般的な手法であるが、高松市のコミュニティセンターの中には野菜や漬物の販売等を行うことで、人を呼び込んでいるところがあり、地域の人々が集まる場所としてよく機能していると感じる。また、100円でお茶やコーヒーを飲みながら話ができるスペースがあるコミュニティセンターもあり、生涯学習センターのスペースでも、このような取り組みができないかと考える。こういった点から、現在行っている自主学習スペースの夜間開放については、若い世代の方にも生涯学習センターの活動状況について知ってもらうために非常に効果的と考える。

また、複数のコミュニティセンターの横のつながりによる事業として、健康のために歩いてコミュニティセンターを巡り、スタンプを集めるとお土産がもらえるといったイベントを開催していた。地元の歴史を知りながら歩くといったイベントを開催している地域もあった。その中心に位置するのが生涯学習センターということか。

(事務局)

コミュニティセンターは地域の生涯学習の拠点、生涯学習センターはその中央拠点として位置づけている。生涯学習センターでは1か月に1回の頻度で「生涯学習推進員等定例研修会兼生涯学習コーディネーター養成講座」を開催しており、10月にはまなびの場づくり事業についての情報交換の場を設けた。また、研修後にはコミュニティセンターの職員同士で情報交換などの交流をしている様子が見受けられる。

(委員)

所属する地区の婦人会が研修を行う際にコミュニティセンターの職員に相談したところ、いろいろな講師を紹介していただき、今年は、消防・防災関係、アンガーマネジメント、振り込め詐欺、マイナンバーカード等についての研修を開催した。研修に参加した婦人会の会員が自分の地区に持ち帰って他の方にも話すと大変好評であった。コミュニティセンターの職員は、研修会などで集まった際に、他の地域の講座や研修のことを聞き、ときにアドバイスしあうなどして、事業の改善に活かしていると感じている。

(事務局)

10月の研修会では、生涯学習センターから、各地域コミュニティセンターが実施したまなびの場づくり事業の一覧表を資料として共有した。また、生涯学習センターでは、各地域コミュニティセンターが開催している多様な講師を紹介していただく、「コミュニティセンター等との連携事業」の実施により、当センターの講座の充実につながっていることから、今後も、各地域コミュニティセンターと協力していきたい。

事務局から議事（3）についての説明を行った。

（会長）

令和3年度はオンライン講座を試行的に開催したが、今後も継続的に取り組む予定か。

（事務局）

取り組んでいく予定である。今回は、オンラインでの受講と上映会場での受講が選択できる形式で実施したが、今後は、講師が講義を行っている会場での受講と、そのライブ配信で受講できる形式（ハイブリッド型）を検討していきたい。

（委員）

このオンライン講座に申し込んだのは何人か。個人的には、年齢的にもWEB配信の講座には慣れていないので、講師と対面した方が理解しやすいと感じている。

（事務局）

10月に開催したオンライン講座では、オンラインで14名、上映会場で14名の参加があった。オンラインでの受講に慣れていない方や初めての方を対象に、事前にオンライン講座の受講方法を学ぶ講座を開催した。この講座で受講方法を学んで、実際のオンライン講座を受講した方もいる。オンライン講座に自分の力で参加できる方を増やしていくことはこれからのポイントだと思う。

また、11月に開催した高松市民大学においては、会場に出向くことが難しい子育て中の方を主な対象と考え、会場での講演やパネルディスカッションの様子を、YouTubeでライブ配信した。

（会長）

大学でも、新型コロナウイルス感染症が蔓延した時期は、講座は全てオンライン形式であったが、相手の反応を見ながら進めることができず、対話も成り立たないため、自分のペースで話し続けるので授業のスピードが速くなりがちであった。相手の顔を見て対話できるので、やはり対面式が良いと考えるが、コロナ禍においてはオンライン形式にせざるをえなくなる状況がある。

オンライン形式の中でも、講義の様子をライブ配信する形式が良いと考える。また、ライブ配信ではなく、あとで見られるようにビデオにするという方法もあるが、画像と音声の編集には熟練した技術が必要であることから、講師に任せて、ライブ配信するのが一番運営しやすい。

（委員）

今後の生涯学習の推進方針の中で、行政として市が行う事業として「人づくりまちづくりに繋がる学習」、「社会的に困難を抱える人への学び」が挙げられていたが、私もその通りだと考える。コロナ禍の時代で、人と対面する機会が減り、逆に、人と人との繋がり的重要性を実感した。人と人との繋がりを大事にする人づくりが、一つの最終目標であって、そのための手段がいろいろとあると思う。ケースバイケースではあるが、行政が行う事業の方針を念頭に置き、示すということは非常に重要なことだと思う。

（委員）

今後の生涯学習の推進方針における重点項目について、生涯学習センターが担うことはどれ

かという明記があれば、生涯学習センターの位置づけや在り方が明確になるのではないか。

(会長)

課題を挙げる場合は、対応する形で改善する手だて、或いは解決する方法を記載し、それにはどのぐらい取り組めるか、将来どうあるべきか等をまとめると良いと思う。

(事務局)

重点課題と対応する形で、改善の手立てや生涯学習センターの在り方を示せるように、資料の作り方を検討する。